

# モイスターチームを立ち上げて



(医)社団つばさ つばさクリニック

○濱田 絵美、千葉 由紀子、松山 良信、  
大山 恵子、諸見里 仁、大山 博司

# 目的

---

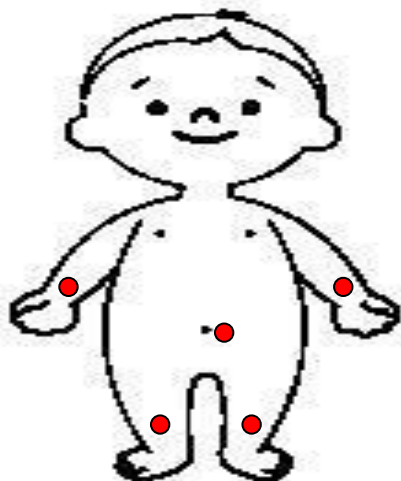
- 透析患者の痒みに対しては、様々な薬剤や対策があるが大きな改善が見られる方法は少ない。当院では痒みの改善やスキンケアを中心に行なうモイスターチームを立ち上げH22年10月より痒みと皮膚乾燥に注目し、透析中の皮膚水分測定を始め患者指導を行なった。
- 今回、皮膚水分量の変化や指導の効果について評価・検討を行なったので報告する。

# 対象

---

- 患者数 95名 男性 81名:女性 14名
- 平均年齢 63.4±13.0才 透析歴 57.1±37.8ヶ月
- 糖尿病患者 42名:非糖尿病患者 53名

# 方法



月に1回左記の部位を測定

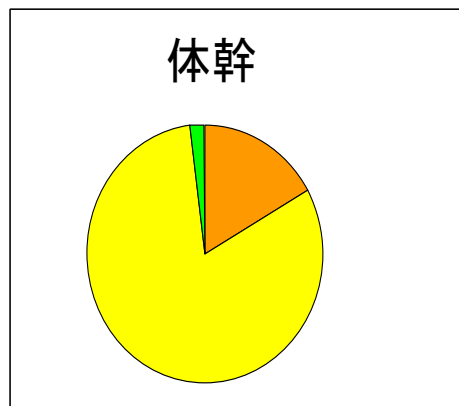
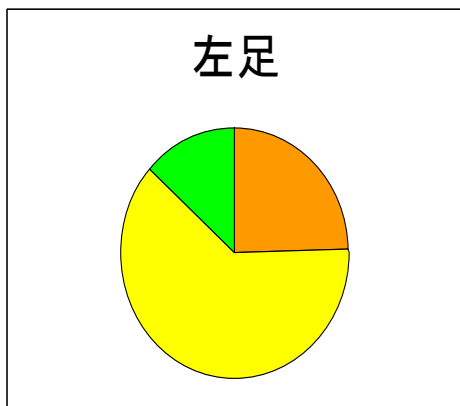
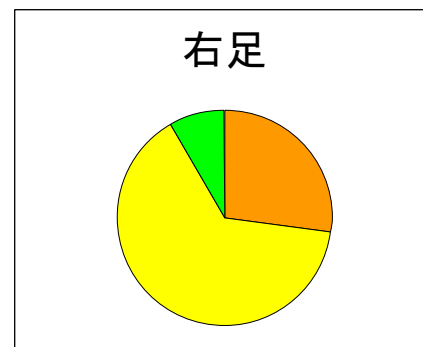
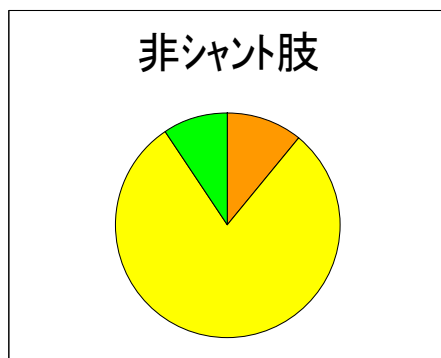
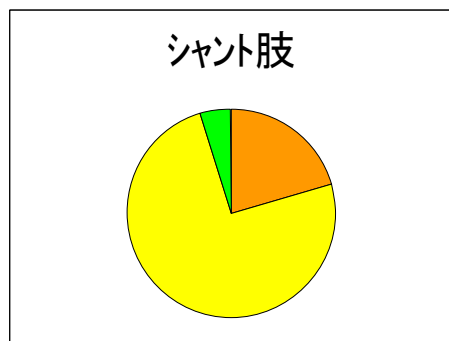
- ①左右前腕内側部
- ②臍部
- ③両下肢内側部



肌湿度計(ロゼンスター社製)

外見上での皮膚乾燥状態や実測した上で肌水分が低い患者。実際に痒みを訴えている患者へ乾燥を抑えることで皮膚状態が改善することを自作のパンフレットを活用し指導。又、セルフケア方法を指導に加えた。

# 結果 1 部位別の傾向



■ レベル1
 ■ レベル2
 ■ レベル3

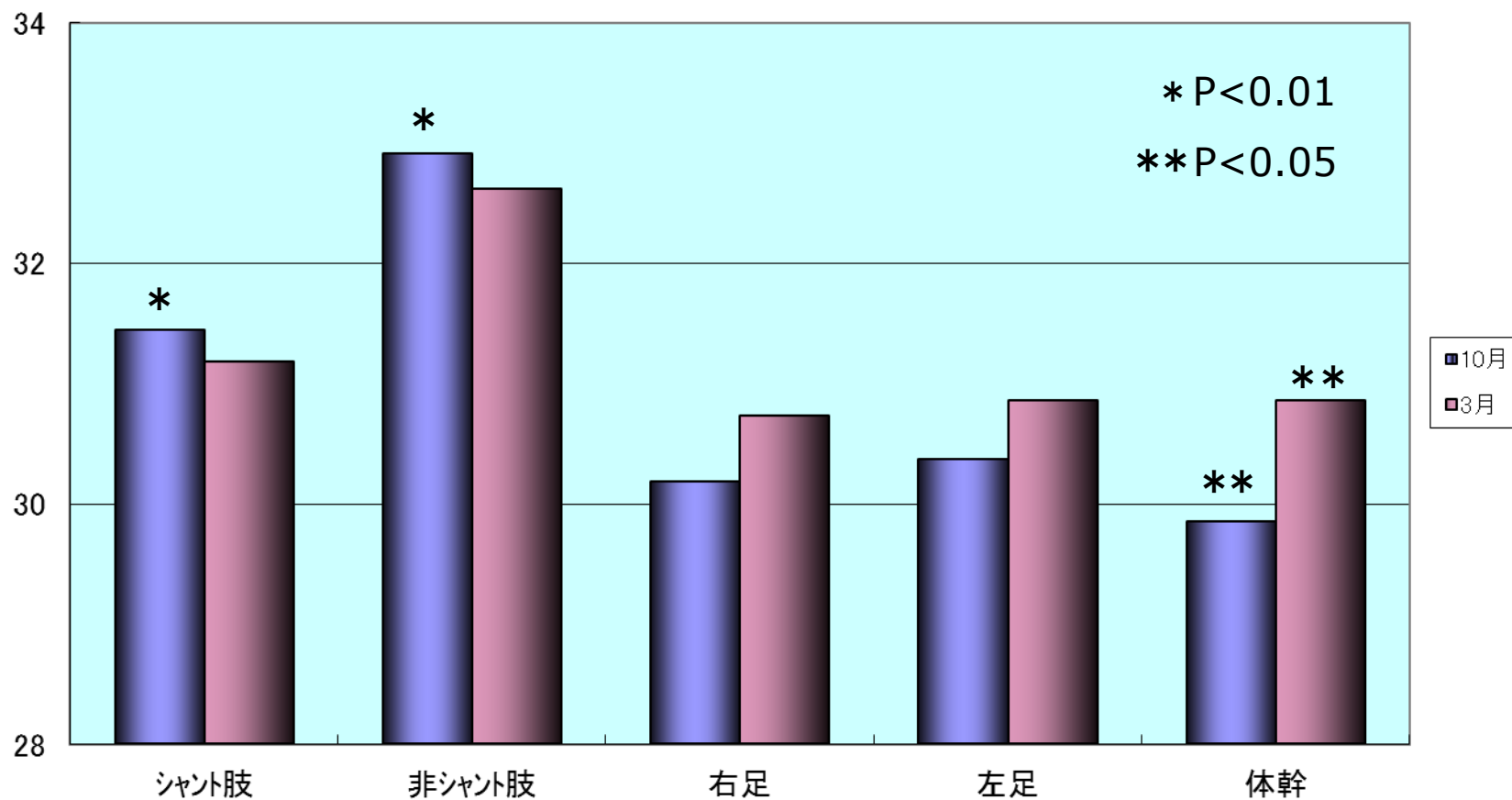
レベル1	~ 26.9% 未満	とても乾燥している	肌表面はとてもカサついて、つやがない状態
レベル2	27.0~ 36.9%	少し乾燥している	肌表面がカサついている状態
レベル3	37.0~ 46.9%	しっとりお肌	環境により変化しやすい状態

# 指導内容

---

- 該当する皮膚水分量のレベルを伝えた。
- 自作のパンフレットを見せローションやホ「デー」クリームを使用しスタッフが透析中に単擦を行なった。
- 効果的な保湿方法を指導し保湿した皮膚の肌感触を実際に感じてもらい違いを実感してもらった。
- セルフケアで困っている事はないか聞き、無理のない継続可能な対策を一緒に考えた。
- 皮膚水分量・皮膚状態が改善していたら必ず努力を認めた。

## 結果 2 導入前後の比較水分量



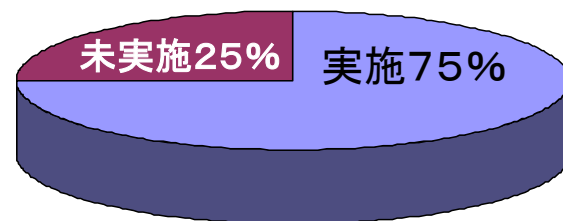
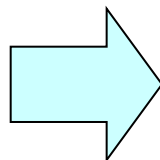
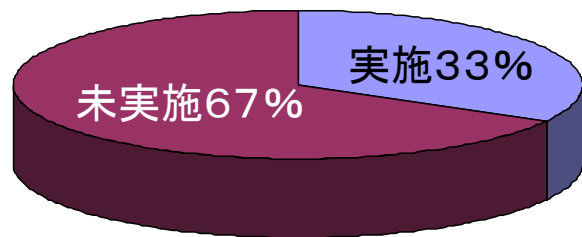
# 結果1、2のまとめ

---

- 部位別では体幹部が最も乾燥していた。
- 導入後、体幹部の乾燥は有意に改善された。
- シヤント肢は非シヤント肢と比較して導入前後共に有意に乾燥していた。
- 導入後、両下肢の状態に有意差は無かったが、改善傾向だった。

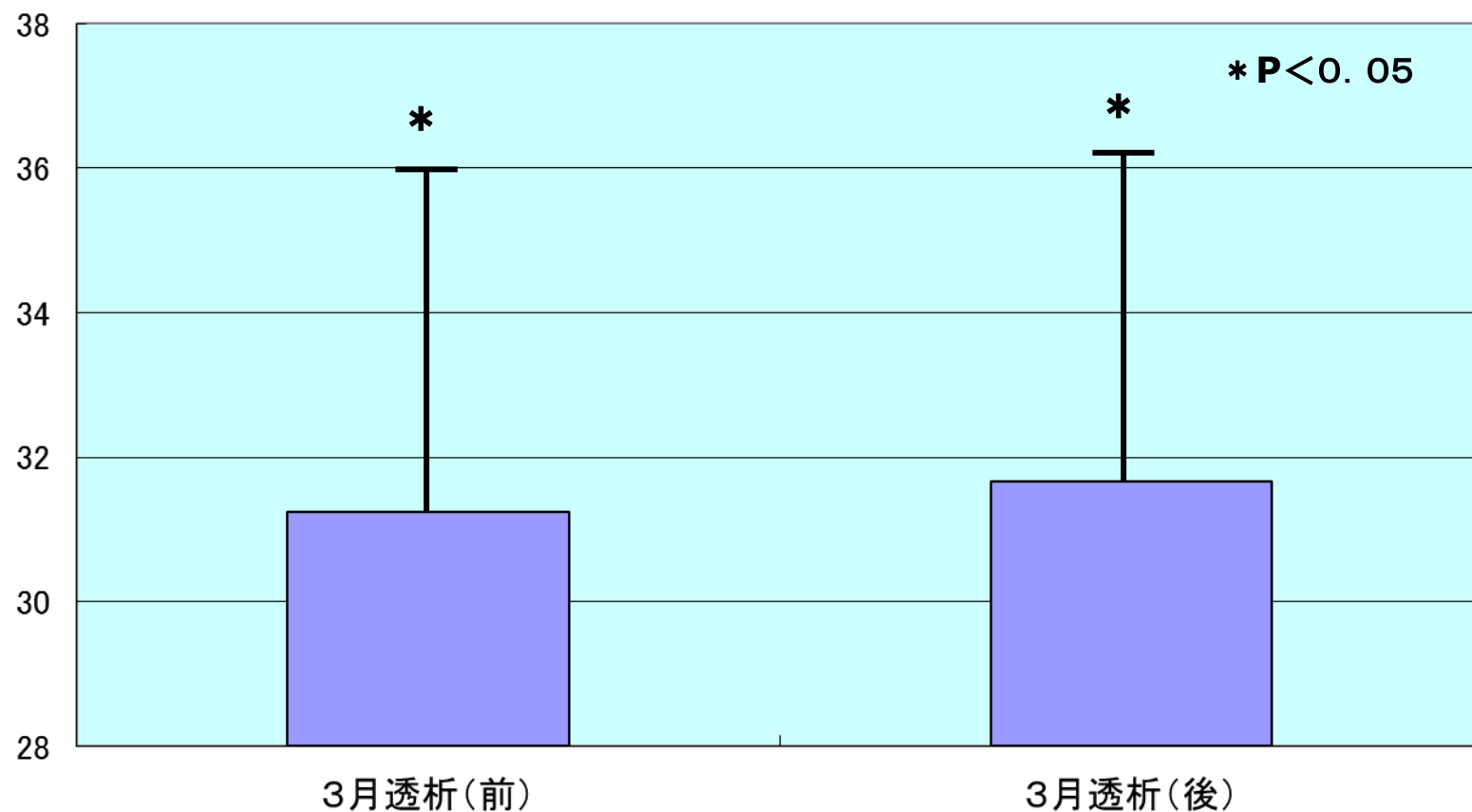
## 結果3 患者意識の変化

- 月に1回しか皮膚状態を確認できなかったが、皮膚状態の改善、悪化に関わらず毎月の測定に殆どの患者が感心を示した。
- 指導前、33%の患者しか日常的にセルフケアを取り入れていなかったが、指導半年後には75%の患者が日常的にセルフケアを取り入れることができた。





## 結果4 透析前後水分量の比較



# まとめ

---

- 殆どの透析患者は肌水分量の少ないレベル1又は2に該当する皮膚乾燥状態であった。
- 皮膚の乾燥は痒みという不快感だけではなく不眠や感染を引き起こす原因となる為早期に対処が必要である。
- セルフケア指導の前に患者に皮膚乾燥から痒みが引き起こされるメカニズムを理解した事で75%の患者が継続的なセルフケアに繋がった。

# 結語

---

- モイスチャーチームを立ち上げ患者指導を行った事は皮膚水分量の改善だけでなく患者の意識も向上し皮膚トラブルの早期発見に繋がると思われた。
- 今後も患者とコミュニケーションを図りながら個々の皮膚状態に併せた指導を行なっていきたい。
- 透析後の皮膚水分量が上昇する機序については今後の検討課題として更に取り組みたい。

# 日本透析医学会 COI 開示

**筆頭発表者名： 濱田 絵美**

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある  
企業などはありません。